

出雲市中小・小規模企業振興モデル事業の実施状況について

1. 事業の沿革

平成 29 年 3 月に制定された「出雲市地場中小企業・小規模企業振興基本条例」をふまえ、平成 30 年 8 月に、市内の地場中小・小規模企業の持続的な振興を図ることを目的として、「出雲市中小企業・小規模企業振興計画」(H30～R4) を策定した。

この計画をもとに、市内企業が自ら行う課題解決のための取組を支援するため、「出雲市中小・小規模企業振興モデル事業」を実施している。

2. 事業の概要

市内の企業経営者等で構成されるワーキンググループ (WG) が主体となり、市内中小・小規模企業が成長・発展していくためのモデル事業を提案・実施することにより、企業自らが課題に取り組む仕組みづくりや今後の中小・小規模企業の振興施策に活かしていく。

【提案するテーマの例】

- ・地域内での資金循環の促進
- ・生産性向上に向けた I T 化等の促進
- ・経営者の意識・行動改革と多様化する働き方への対応
- ・人材確保支援
- ・事業承継の支援・第二創業の推進 など

3. 令和 2 年度 実施事業

【令和元年度からの継続事業】

WG 名	事業目的	事業内容(概略)	事業費 (千円)
神門通りうさぎプロジェクト (R 元～R3)	商店街の自主財源確保と持続可能な仕組みづくり	出雲神話に縁の深い「うさぎ」を新たなコンテンツとしてブランド化し、街歩きを促す仕組みづくりや関連商品の開発・販売など、商店街の自主財源確保に向けた収益モデルの構築に向けて取り組んだ。	1,285
斐川特産協会 (R 元～R2)	生産者と道の駅による地域産品の商品力・情報発信力の強化	特産品の生産者(協会員)と道の駅湯の川との連携により、斐川地域のキャラクターによる動画等を作成・活用し、特産品の商品販売力や情報発信力の強化を図った。	1,428
空き家再生WG (R 元～R3)	空き家再生による移住・定住の促進と空き家の商業利用の拡大	空き家の解体や修繕を行うワークショップを開催し、空き家活用のニーズの掘り起こしを行うとともに、雲州平田駅前の空き家をシェアハウスとして運営していく仕組みづくりについて検討した。	420
I T による生産性向上WG (R 元～R3)	I T を活用した生産現場の生産性向上と技術の伝承	令和元年度に制作した「動画による作業改善 I T ツール」の更なる利便性向上のため、専門家の意見を踏まえ、新機能を追加。製造業における作業工程の標準化や課題抽出のため、このツールを活用した職場研修を開催。この研修を通じて、改善点が共有化され、商品の品質の安定化につながった。	1,330

【令和2年度 新規事業】

WG名	事業目的	事業内容(概略)	事業費 (千円)
『出雲STYLE』ブランド開発グループ (R2～R3)	「出雲」のブランディングによる販路や事業の拡大	地元の魅力ある商品を「出雲スタイル」としてブランド化するため、販路、商品内容などのリサーチを行い、モデルとなる業者や小売店を選定。また、リサーチ結果を踏まえて、商品パッケージやギフト用ボックスのデザインサンプルを制作した。	822
出雲市内資金循環促進ワーキンググループ (R2～R3)	市内で資金が循環する経済モデルの創造	市外への資金流出を防ぐため、地元小売店でできるだけ買い物が完結できる仕組づくりを検討した。また、地域経済についての講演会や市内事業者と講師によるトークセッションをオンラインセミナーにて開催。市内での持続的な資金循環について考える機会となった。	332
神門通りご縁社会推進ECメンバーズ (R2～R3)	コロナ禍に対応するための新たな販売チャネル(インターネット通販サイト)の構築	コロナ禍による観光客減に伴い、新たな売上を確保するため、「出雲大社」「縁結び」「神話」などのイメージを活かした通販サイトを開設した。ITの活用には慣れない事業者の参画を支援するほか、着地型観光を推進するため、宿泊・体験・飲食セットなどの体験型商品の検討・開発を行った。	1,000

※ 最長3年間、事業継続可能(斐川特産協会以外のWGは、令和3年度も事業継続)

※ 各事業の詳細は、別添のとおり。

4. 令和3年度事業について

(1) 新規募集件数

1～2件程度(予算額:1,000千円)

(2) スケジュール

4月26日:市ホームページにおいて募集開始

6月21日:募集締切(事業計画書及び収支予算書の提出)

7月上旬:出雲市地場中小企業・小規模企業振興会議において審査
事業承認後:事業開始

2月末:事業完了

3月下旬:出雲市地場中小企業・小規模企業振興会議において事業報告

令和2年度 事業実施報告（令和元年度からの継続①）

WG名	神門通りうさぎプロジェクト
WG構成員	影山商事(株) 顧問 田邊 達也(神門通りおもてなし協同組合) 他3名
モデル事業名	ブランディングによる商店街振興の仕組みづくり
事業概要	出雲神話に縁の深い「うさぎ」を新たなコンテンツとしてブランド化し、街歩きを兼ねた関連グッズを開発・販売することにより、商店街の自主財源を確保する収益モデルを構築する。
令和2年度 実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度制作した「出雲うさぎ」シンボルマークを活用したオリジナル商品（うさぎ自販機、御朱印、エコバッグなど）を開発し、「出雲の日」うさぎ祭において販売した。 ○ 「出雲の日」うさぎ祭りにて、新型コロナウイルス感染拡大の収束への願いと医療従事者への感謝の意を表すため、神門通りを中心に出雲大社本殿、弁天島、巨大うさぎバルーンなどのライトアップを行った。 ○ 商店街の自主財源確保に向けた取組や着地型商品としてのコンテンツ開発を行うため、有料の街歩きガイドブック制作の検討を行った。
令和2年度 事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「出雲の日」うさぎ祭りで行ったライトアップは、新聞やSNS等に取り上げられ、「出雲の日」や「出雲うさぎ」の認知度向上につながった。 ○ 街歩きガイドブック制作に向けた検討において、ターゲット、コンテンツ、キーワード等の内容が決定し、デザインの素案も完成した。 ○ 一部イベントが中止となるなどの影響があったが、今年度実施した様々な活動を通じて、商店街各店舗が「出雲うさぎ」という新たなコンテンツを活用するメリットについて、認識を高めることができた。
令和3年度 事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「出雲うさぎ」を活用したオリジナル商品の開発を継続するとともに、商店街各店舗における商品開発も促し、更なる利益確保につなげる。 ○ 街歩きガイドブックについて、うさぎスタンプラリー開催による検証結果やうさぎモニュメント増設に向けた取組を踏まえ、専門家やデザイナーの意見を参考としながら制作を進める。 ○ 商店街各店舗から「出雲うさぎ」ロゴマーク使用料を徴収することによる継続的な自主財源確保に向けた仕組みづくりの検討を行う。



ワーキンググループ 会議の様子



「出雲の日」でのオリジナル商品の販売



うさぎロゴ入り自販機

令和2年度 事業実施報告（令和元年度からの継続②）

WG名	斐川特産協会
WG構成員	(有)宍道湖 取締役 原 秀範 他1名
モデル事業名	地域の特産品を活用した出雲ブランドの確立
事業概要	特産品の生産者（協会員）と道の駅との連携により、斐川地域のキャラクターによる動画等を作成・活用して、特産品の商品販売力や情報発信力の強化を図る。
令和2年度実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「道の駅」湯の川で販売されている特産品の売上向上及び斐川特産協会員（以下「会員」）の意識醸成に向けて、「ひいばあちゃん」を活用した商品紹介用吹き出しPOPを各会員と協働で制作した。 ○ 昨年度開設した「ひいばあちゃん」YouTubeチャンネルの動画を新たに3本制作し、SNSやWEBを連携させた特産品の情報発信を行った。 ○ QRコード付きミニチラシから斐川特産協会の関連サイトにアクセスする流れを強固にするため、YouTubeチャンネルやTwitterなどにリンクするランディングページをリニューアルした。 ○ 観光客に向けた特産品の情報発信ツールとして、「ひいばあちゃん」の等身大パネルを制作した。
令和2年度事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 商品紹介用吹き出しPOPの紹介文内容を各会員に依頼したことで、各会員の本事業への理解やモチベーション向上を図ることができた。 ○ 「ひいばあちゃん」等身大パネルを制作したことで、今後の県内外に向けた情報発信力強化の足掛かりができた。
令和3年度事業計画	各会員の本事業に対する理解や協力を得るための取組が十分に行えず、斐川特産協会が一体となって取り組む体制の構築が出来なかったことに加え、昨年からのコロナ禍が各会員の事業継続やモデル事業の活動に深刻な影響を及ぼしたことを踏まえ、今後は、モデル事業としてではなく斐川特産協会の独自事業として取り組む。



ワーキンググループ 会議の様子



「ひいばあちゃん」POPパネル
「道の駅」湯の川設置状況

令和2年度 事業実施報告（令和元年度からの継続③）

WG名	空き家再生 WG
WG 構成員	(有)伊藤製材所 専務 伊藤 晃章 他 2 名
モデル事業名	空き家利活用による移住・定住の促進とビジネスユースの拡大
事業概要	市民参加型のワークショップや居住及び商業利用の希望者を対象としたモニターツアーを実施し、空き家活用のニーズの掘り起こしを行う。また、空き家の効率的な利活用に向けた仕組みを構築し、新規創業や移住・定住の促進を図る。
令和2年度 実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 伊野地区にある空き家において、残置物撤去・片付けワークショップを開催し、参加者が無料で家具等の引取りが可能な「もってけ市」を実施した。 ○ 県立大学生向けのシェアハウス「すずかけ荘」の解体や壁塗装ワークショップを開催した。1階オープンスペースに設置するテーブル・椅子づくりには、平田高校の生徒も参加した。 ○ 「すずかけ荘」の運営体制や支援体制を構築するため、平田商工会議所が主導となり各関係団体や地元町内会が参加する支援協議会発足に向けて取り組んだ。
令和2年度 事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 伊野地区の空き家は自治協会によりリフォームされ、寄り合いの場として活用されることになった。 ○ 昨年度にワークショップを実施した木綿街道の空き家の利用希望が相次ぎ、地元大工による木工製品・雑貨の販売店の入居が決定した。 ○ 支援連絡協議会発足に向けた準備会では、各関係団体や地元町内会、その他オブザーバーによる忌憚のない意見交換が行われ、「すずかけ荘」を地域として支援していく体制構築の足掛かりとなった。
令和3年度 事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関係団体等との連携強化による空き家情報の収集及び提供を行い、引き続き、市民参加型の空き家ワークショップを実施する。 ○ 「すずかけ荘」の持続可能な運営体制構築に向けて、県立大学浜田キャンパス学生向けシェアハウスである「かなぎシェアハウス」への視察及び勉強会を行う。 ○ 空き家ワークショップの経験やノウハウを踏まえ、地元工務店や地元大工等と連携を図り、ビジネスユースにおける空き家利活用に向けた改修スキームを構築する。



椅子・テーブル製作をする高校生



残置物撤去・片付けワークショップの様子

令和2年度 事業実施報告（令和元年度からの継続④）

WG名	ITによる生産性向上WG
WG構成員	(有)田中豆腐店 代表 田中 章一 他3名
モデル事業名	生産現場における動画による作業改善 IT ツールを活用した生産性向上事業
事業概要	生産現場において動画による作業改善 IT ツールを活用し、現場作業の改善、生産性向上に向けた検討を行う。
令和2年度実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度制作した作業改善 IT ツールの更なる利便性向上のため、専門家の意見を踏まえながら追加機能を開発した。 ○ 食品製造業の現場において、作業工程の標準化や品質の安定化を図るため、動画による作業改善 IT ツールを活用した職場研修を開催した。 ○ 金属部品加工業の現場において、作業工程の標準化や課題抽出のため、動画による作業改善 IT ツールを活用した職場研修を開催した。
令和2年度事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作業改善 IT ツールについて、専門家の指導の下「優先分析機能」「データ分析及び見える化機能」「改善教育・コーチングを効率的に行う機能」の3つの追加機能を開発した。 ○ 作業改善 IT ツールを活用した分析を行った結果、実際の作業工程における工夫点や改善点の共有が図られ品質の安定化（食品製造業）、各作業員のボトルネックの明確化や改善ポイントの共有化（金属部品加工業）につながった。
令和3年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年目、2年目で実施した食品製造業及び金属部品加工業の作業改善結果について、グラフによるビジュアル化や傾向分析を行い、更なる見える化を行う。 ○ 飲食サービス業において動画撮影を行い、作業改善 IT ツールを活用して接客などのサービス向上に向けた改善点発見や人材教育を行う。 ○ より効率的に作業改善 IT ツールを使いこなし、継続して作業改善が行えるよう、操作性の明確化及び簡素化を図るための機能開発を行う。 ○ 令和4年度の作業改善 IT ツールパッケージ化に向けて、市内中小・小規模企業が安価で導入しやすく、かつ効率的に活用できる仕組みづくりを専門家指導のもとで検討する。



ワーキンググループ会議の様子



作業改善 IT ツールの追加機能

令和2年度 事業実施報告 (令和2年度 新規①)

WG名	『出雲STYLE』ブランド開発グループ
WG構成員	松井(株) grappino 店長 原田 幹也 他2名
モデル事業名	出雲スタイルブランド化計画
事業概要	これまであまり知られていなかった地元の魅力ある商品を、ジャンルを超えて開拓し、「出雲スタイル」としてワンブランド化及び商品のブラッシュアップを図る。ブランド認知度の向上により、地元商品を地元で購入・消費する流れを構築するとともに、ブランドを活用した各事業者の販路や事業の拡大につなげる。
令和2年度実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「出雲スタイル」のブランディングに伴うコンセプト立案のため、コーディネーターやデザイナーの指導の下、販路、商品内容、各種競合ブランド等のリサーチを行い、モデルとなる業者や小売店を選定した。 ○ リサーチ結果を踏まえて、商品パッケージやギフトボックス用のデザインサンプルを制作した。 ○ 「出雲スタイル」の販売方法として、「ギフト」や「お祝い」など、「出雲スタイル×Happy」のようなコンセプトを立案し、それに伴うギフトパッケージのデザインを作成する計画を立てた。
令和2年度事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 奈良県の有名商店を事業モデルとして、市内の業者や生産者の商品を全国のセレクトショップへ販売するプラン構築の基盤ができた。 ○ 実際の商品の品揃えや卸先販路のイメージモデルとして、大手百貨店や有名セレクトショップを選定し、次年度に向けた事業展開の共有ができた。 ○ 通常取り扱う商品とは異なる「出雲スタイル」モデルの流通経路について、様々なメーカーの流通経路を一本化することについての課題及び解決に向けた取組を確認することができた。
令和3年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 初年度に行ったマーケットリサーチを基に、商品の展開計画、コンセプト立案及びデザイン制作を行い、実際に販売できるパッケージ商品として販売を開始する。 ○ 実店舗での販路拡大を目指しつつ、コロナ禍での事業実施対策として法人ECサイトでの販売を平行して行い、全国への販路拡大を図る。



ワーキンググループ zoom 会議の様子



商品パッケージ用のデザインサンプル

令和2年度 事業実施報告 (令和2年度 新規②)

WG名	出雲市内資金循環促進ワーキンググループ
WG構成員	㈱田中種苗 代表取締役 田中 充 他3名
モデル事業名	持続的な出雲市内における資金循環型経済圏域創造事業
事業概要	市外への資金流出を防ぐため、地元小売店でできるだけ買い物が完結できる仕組づくりを検討していく。地元の消費者に付加価値（メリット）を提供するための手法の検討や消費者目線での現状分析に基づいた新たなビジネススタイルの考察などを通じ、市内で資金が循環する経済モデルの創造に取り組む。
令和2年度実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 持続的な市内資金循環促進について、コーディネーターを招き、勉強会や研修会を開催して理解を深めた。 ○ 有名雑誌編集長を講師として招き、地域経済についての講演会や市内事業者と講師によるトークセッションを、YouTube を利用したオンラインセミナー形式にて開催した。 ○ 金融機関による、プレミアム付き商品券や地域通貨の電子化導入に向けた勉強会をWGメンバー向けに開催した。
令和2年度事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 勉強会や研修会の開催を通して、小売業として地域に密着・貢献し、付加価値を提供していく重要性を共通認識として持つことができた。 ○ オンラインセミナーには合計95名の事業者が参加し、他地域の事例紹介や講師とのトークセッションを通して、今後の地域経済の在り方を考える良い機会となった。 ○ 金融機関による勉強会を通して、地域通貨導入のメリット・デメリットを学ぶことができ、デジタル及びアナログ双方の特徴を踏まえた今後の対応について、WGメンバーで共通認識を持つことができた。
令和3年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続き、持続的な市内資金循環促進についての勉強会を、コーディネーターを招いて開催し、WG内での理解を深める。 ○ 新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、地域通貨やプレミアム商品券の導入に向けて、導入事例のある先進地の視察を行う。 ○ 市内資金循環促進に向けた講演会を開催する。



WGメンバー向け勉強会



オンラインセミナーの様子



セミナーちらし

令和2年度 事業実施報告(令和2年度 新規③)

WG名	神門通りご縁社会推進 EC メンバーズ
WG構成員	㈱出雲ファクトリー 代表取締役 多々納 光教 他2名
モデル事業名	Together Izumo～インターネット通販におけるご縁の國出雲モデル確立事業
事業概要	商店街のインターネット通販という新たな販売チャネルを構築し、コロナ禍により減少した売上の回復を図る。「出雲大社」「縁結び」「神話」などのイメージを活かした出雲らしさの演出や IT の活用に不慣れな事業者の参画支援体制の構築を行うほか、宿泊・体験・飲食セットなどの体験型商品を取り扱うことで、出雲らしい着地型観光を推進する。
令和2年度 実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 商店街各店舗のお勧め商品や着地型観光を目的とした体験型商品などを取り扱う通販サイト「出雲の國大社観光ご縁市場」を開設した。 ○ 宿泊・体験・飲食セットなどの体験型商品の充実に向けて、商品やコンセプトを商店街各店舗や専門家の意見を踏まえながら検討した。 ○ SNS でのフォロワー獲得を通して販路を開拓するため、Twitter アカウントを開設して「神迎えシーズン」や「出雲の日」、「出雲ウィーク」期間中にプレゼント企画を行った。
令和2年度 事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 専門家の指導のもと、通販サイトの構成を観光情報や店舗紹介などのページと通販サイトページの2段構成とすることが決定した。 ○ 各店舗に向けた全体説明会を通して商品掲載の協力依頼を行い、2月末時点で掲載商品117アイテム、体験型商品3アイテムを登録した。 ○ Twitter のプレゼント企画を通して、3,000人余りのフォロワー獲得に成功。今後の情報発信強化及び売上向上に向けた基盤ができた。 ○ 通販サイト開設時に各報道機関の取材を受け、ニュースや新聞に取り上げられたことで、認知度向上に向けた起爆剤とすることができた。
令和3年度 事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日御碕地区、鶉鷺地区の店舗も対象に加え、取扱商品の拡大を目指す。 ○ 通販サイト認知度向上に向けて、神門通りの観光客へ向けたPRとWEB上でのPRを連動できる仕組みを検討する。 ○ 疑似とリアルを兼ね備えた観光地型の新たな通販モデルとして、自宅に居ながら出雲大社門前町の魅力に触れることができるコンテンツの制作や現地で体験できる体験型商品の拡充に向けた検討を行う。



ワーキンググループ会議の様子



通販サイトトップ画面